

平成21年8月3日

上海市品質技術監督局 自転車の抜取検査と品質分析会を実施

上海市品質技術監督局は2008年と2009年に自転車の抜取り検査を実施したが、その結果と結果について専門家が討議した品質分析会の内容がこのたび国家品質監督検査検疫総局のサイト上に公表されたので報告する。

検査の基準は中国の国家標準で、サンプル数は2008年が自転車生産企業14社と販売企業10社の24モデル、2009年が生産企業21社と販売企業13社の自転車製品計34モデルで、2008年、2009年の合格率はそれぞれ29.2%と64.7%だった。

1. 不合格の項目は下表のとおりである。

表1 2008年の抜き取り検査不合格項目

番号	項目名	不合格数	不合格率(%)
*1	ハンドルステム折り曲げ試験	12	50
*2	ハンドルバー・ステム結合部品疲労試験	11	46
3	リフレクター取り付け	10	42
4	サドル静負荷試験	4	17
5	チェーン引っ張り力	4	17
6	駆動系統静負荷試験	3	13
*7	フロントホーク疲労試験	2	8
8	ハンドルステム標識	1	4

- *1 ハンドルステムの折り曲げ試験において標準が定める1600Nという要求を満たしておらず、最も劣るものでわずか850N(ステムの厚さわずか0.9mm)。
- *2 ハンドルバー・ステムの結合部品の疲労試験では、標準が求める同方向への力と異なる方向への力の二段階の試験を各5万回行った。最も劣るものでは第一段階で同方向への力を296回加えただけで断裂が発生。
- *7 フロントホーク疲労試験では、標準が求める試験回数5万回を満たさず、最も劣るものではわずか1500回で、フロントホークの足に亀裂が出現(足の厚みはわずか1mm)。

表 2 2009 年の抜き取り検査不合格項目

番号	項目名	不合格数	不合格率(%)
1	ハンドルステム折り曲げ試験	5	14.7
2	フロントホーク疲労試験	7	20.6
3	ハンドルバー・ステム結合部品疲労試験	9	26.5
4	リフレクター取り付け	1	2.9

2. 上海市品質技術監督局は今年の7月17日に専門家による「自転車製品品質分析会」を開き、問題の原因を分析している。その内容は以下のとおりである。
- 1) 自転車はハイテク製品ではなく、基本的に労働集約型製品に属するため、製造による利潤が低い。現在自転車の供給過剰という状況下で、激しい市場競争により製造利潤が絶えず低下し、一台あたりわずか3～5元となっており、一部の企業は低価格の部品を採用し、これにより完成車全体の品質を損ねることとなっている。
 - 2) 我が国の自転車産業がここ数年間急速に発展し、部品の専門的生産が行える規模となったことで、自転車の完成車生産が比較的容易となり、小型の組立企業が絶えず出現している。しかしながら小型企業は技術力が薄弱で、品質管理能力が比較的劣り、技術基準も軽視されていることもあって、品質問題が発生しやすくなっている。
 - 3) 社会的要素から分析すると、自転車の品質に多くの問題が出現することは、やはり低価格自転車への社会的ニーズの存在によるものである。自転車は全て屋外に置かれるため、紛失・盗難が重大な問題となっており、そのため消費者は自転車を選択し購入する際には、盗難を恐れ、先ず何よりも低価格の製品を選ぶ。しかしながら低価格の自転車は廉価で質の劣る部品によって組み立てられており、国家標準の要求を全く満たしていない。

同監督局によると、上海周辺の自転車メーカーの大多数は組立型企业で、主に天津、江蘇、浙江などの地区で専門的に生産された部品を購入し、完成車に組み立てて出荷している。

原文は下記のアドレスで参照可能。

http://www.aqsiq.gov.cn/zjxw/dfzjxw/dfftpxw/200907/t20090721_122374.htm

以 上

(上海事務所)



この報告書は、競輪の補助金を受けて作成したものです。